

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

# vivo

## 2&3

FEBRUARY/MARCH 2003

### CONTENTS

水戸室内管弦楽団第53回定期演奏会 ...1、2
ATMアンサンブル第18回演奏会 .....3
現代音楽を楽しもう 清水靖晃 .....4
合唱セミナー、日本のうた セミナー、 水戸うらら女声合唱団 .....5
最近の公演から .....6
ネタマ「続・ジカダンバン報告」 .....7
インフォメーション .....8



写真上;水戸室内管弦楽団 / 左上;原田幸一郎 / 左下;清水靖晃 / 水戸うらら女声合唱団



## 小澤、MCO、そしてモーツァルト 「超える」者たちのコズミックな音楽

2 / 8(土) 9(日) 10(月)水戸室内管弦楽団第53回定期演奏会

顧問・小澤征爾の指揮で行なわれる第53回定期は、オール・モーツァルト・プログラムでお届けする演奏会です。小澤&MCOの演奏によるモーツァルトの音楽 その魅力は、彼らに共通するある想いからも窺えそうです。それは、既存の枠組みを「超えて」、より高みに行こうとすること。そこで、今回はこの「超える」という言葉をキーワードに演奏会をご紹介していこうと思います。

### 西洋音楽の伝統を「超える」 小澤征爾

「できれば、鯨のような優雅で頑健な肉体(からだ)をもち、西も東もない海を泳ぎたい。」と綴ったのは、今は亡き作曲家・武満徹です。彼の言葉が象徴しているように、私たち日本人が西洋音楽と向かい合うとき、そこではいつも西洋の伝統の壁というものに出くわすことになります。しかし、武満が夢見た「西も東もない海」を自由に泳ぐ日本人音楽家が、遂に現われたのではないのでしょうか。それは、2002年よりウィーン国立歌劇場音楽監督のポストに就いた、今や「時の人」である小澤征爾、その人です。

こうして、小澤が本場ヨーロッパで最高のポストのひとつに迎えられたということは、かの地の人たちが小澤を「日本人 / 東洋人」という色眼鏡で見なくなったということの一番の証左なのではないかと思えます。少々逆説的な言い方をすれば、小澤は西洋音楽の最高の地位を手に入れたことで、これまでの西洋の伝統からも自由になったのです。洋の東西を「超えた」指揮者 それが現在の小澤征爾なのです。

### オーケストラの既成概念を「超える」 水戸室内管弦楽団

国内外で活躍する腕利きの日本人音楽家たちを一堂に集めて結成されたのが水戸室内管弦楽団(以下、MCO)です。メンバーの多くは、普段はソリストや室内楽奏者として活動をしている演奏家たち。こうしたMCOのメンバー構成は、常勤の雇用形態をもつ世界中の一般的なオーケストラの既成概念を「超える」ものであると言えます。雇われ人ではなく、一国一城の主たちの集まり MCOのメンバーの顔ぶれを見ているとそうしたイメージが想起されます。また、小澤征爾をはじめ、核となるメンバー達は、開設当初の桐朋学園で共に学んだ竹馬の友であり、そうした音楽のベースを共有した音楽家達の集まりであるという点も、他に例を見ない大きな特徴です。1998年の第1回ヨーロッパ・ツアーのフィレンツェ公演で「奇蹟のオーケストラ」と評されたMCOは、まさに既成のオーケストラを「超える」存在なのです。

### 既成の音楽ジャンルの枠を「超える」 モーツァルトの音楽

今回のプログラムは、モーツァルトが管弦楽のために書いたさまざまなジャンルの作品が集められており、モーツァルトの多彩な魅力を存分にお楽しみいただけるものとなっています。そして、これらの名作群は、モーツァルトがそれぞれの音楽ジャンルのそれまでの枠を「超える」ことにより創出された作品ばかりなのです。以下、今回の演奏曲を簡単にご紹介します。

### セレナータ・ノットゥルナ 二長調 K 239

しばしばモーツァルトの音楽に対して言われる「神に祝福され、天から降り注ぐ音楽」という形容がもっともふさわしい曲種のひとつが、セレナータです。モーツァルトの時代のセレナータとは、私的な祝い事や公式の行事などの様々な宴を彩るために、夜に野外で演奏される音楽を指していました。したがって、この時代のセレナータといえば「娯楽音楽」と捉えられていたのですが、神に祝福されたこの作曲家は、そうした通俗的なイメージを「超えて」、時代を「超えて」存在し続け得るような純度の高い音楽へと昇華させていったのです。

セレナータ・ノットゥルナ は、1776年の作曲でモーツァルトが20歳の時の作品です。(MCOでは、95年・第24回定期以来の再演となります。)この作品を最も特徴づけているのは、その楽器編成で、2つの小オーケストラ(ひとつは独奏ヴァイオリン2、ヴィオラ1、ヴィオロネ1=コントラバス1、もうひとつはヴァイオリン2部、ヴィオラ、チェロ、ティンパニ)で構成されています。聴衆を「楽しませる」ことをモーツァルトが徹底的に追求した天空の音楽で、演奏会は華やかに幕を開けます。

### モテット 喜び躍れ、喜びの声をあげよ K 165 (158a)

モテットとは、モーツァルトの時代では典礼用の声楽作品のことを指していました。ですから、まさにこの曲種においてモーツァルトは「超越的」な「神の声」のごとき音楽を志向したのです。

写真左から；  
小澤征爾  
森 麻季  
潮田益子



喜び躍れ、喜びの声をあげよ は、1773年に書かれた若い作曲家の心に宿る躍動感に満ちた作品で、ここでモーツァルトはソプラノ・ソロを独奏楽器として扱おうとし、いわば声楽協奏曲という性格をもっています。つまり、モーツァルトは既存の声楽作品を「超えて」、器楽曲の要素をこの作品で取り入れているのです。

今回の演奏会で、ソプラノ・ソロを務めるのは、小澤もその実力を認め推挙した若き才媛・森麻季です。ドミンゴもその歌唱を絶賛し、2002年6月に行なわれた「3大テノール・ラスト・コンサート・イン・ジャパン 2002」にも出演しているので、彼女の演奏やその名を知る方も多いのではないのでしょうか。「素晴らしい音楽と詩の力を借りて、聴いてくださる方々の心を動かせる音楽家になりたい」と語る森麻季の独唱をどうぞご期待ください。

ヴァイオリン協奏曲第5番 イ長調 K 219『トルコ風』

ソリストに課せられた最高難度の技巧の披露により、協奏曲の演奏は日常を「超えた」奇蹟を行なうようなものである、と言ってしまつては過言でしょうか。

今回演奏されるのは、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲のもっとも成熟した作品のひとつであり、あらゆるヴァイオリン協奏曲の金字塔として、

すべてのヴァイオリニストたちの前に君臨する 第5番『トルコ風』。その大きな魅力のひとつは、ヴァイオリン・ソロの流麗な旋律であることは疑いようがありません。モーツァルトはこの曲において、前出モテットの歌のソロを器楽のように扱おうとしたとは対照的に、ここでは器楽の独奏部を、歌そのものへと転身させていると言えます。ヴァイオリンのソロが、器楽曲というジャンルを「超えて」、人間の心を歌い上げるのです。

ソリストを務めるのは、MCOメンバーの潮田益子。いつもはコンサート・マスターとして、MCOサウンドの屋台骨を支えている彼女のソリストとしての輝かしい一面を、今度の演奏会では大いに堪能ください。(潮田益子氏のインタビューを後掲しています。)

交響曲第35番 二長調 K 385『ハフナー』

演奏会の冒頭や最後に置かれ、演奏会全体の雰囲気を整えるという、あくまで端役的な存在であった交響曲が、完全に独立した楽曲として、しかも作曲家が自らの個性を刻み込むための最も重要なジャンルへと高められたのは、まさにモーツァルトの業績によるところが大きいのです。ですからモーツァルトは交響曲のジャンルにおいても、それまでの枠を「超えて」新たな可能性を切り拓いた作曲家であると言えます。

交響曲 第35番『ハフナー』は、今回の演奏曲のなかでは最も時期の遅い1782年、半生を過ごした故郷ザルツブルクを後にしたウィーン時代に書かれた作品です。ウィーンに移ってから没するまでの10年間に書かれた6曲の交響曲(ハフナー、リンツ、ブラハ、そして最後の三大交響曲)はすべて傑作ぞろいであるのは、皆さんご存じの通り。モーツァルト渾身の交響曲創作への口火となり、大いなる跳躍への契機となったのがこのハフナーに他なりません。

宇宙的(コズミック)な音楽

さて、本稿では、小澤征爾、MCO、そしてモーツァルトが、いかに既存の枠を「超えて」きたかという話しを中心にしてきました。そして、私たちが知りたいのは「超えた」先に、彼らは何を見せられるのか、何を聴かせてくれるのかということです。その答えは、勿論、今度の演奏会の中にある筈です。しかし、筆者はこう考えています。この地球上に生きる私たちがもつ宿命や身の回りの様々な枠組みを「超えて」夢見るものは、始原をつかさどり全てを包みこむ宇宙への視線なのではないかと。皆さんは彼らの音楽に、何を見出しますか?

《中村》

「ソロでもオーケストラでも室内楽を弾くつもりで音楽を作っていくという心構えは変わりません」.....潮田益子インタビュー

モーツァルトのヴァイオリン協奏曲 第5番 K.219 トルコ風 では、ソリストとしてご出演されますが、どのような演奏を目指そうとお考えですか?

潮田:若々しく希望に満ちたこの曲を 200年以上後に日本人のオーケストラでザルツブルクの反対側の地球上で、しかも日本人のオバサンのソロで演奏されることをモーツァルトは想像していたかしたら(笑).....?

彼のセレナード作品などからもっと飛躍して自由に書かれたこの曲を2003年にふさわしい時代感覚で弾いてみたいと思います。

ソリストとしてオーケストラと共演するというのは、大きな舞台であり、精神的なプレッシャーもさぞお有りかとは思いますが、気心の知れた仲間たちの集まる水戸室内管弦楽団の演奏会でソリストを務めるというのは、どのようなお気持ちですか。

潮田:水戸では毎回何か新しい面白い体験をさせていただいているので、今回も今までと違ったことは考えていません。ソロ・パートでもオーケストラ・パートでも室内楽を弾くつもりで音楽を作っていくという心構えは変わりません。

水戸室内管弦楽団のこれまでの活動の中で、潮田さんにとって印象に残る演奏会には、どのようなものが有りますか?

潮田:やはり苦勞した演奏会というのは記憶に残っていますね。最初に参加した時(1990年・第3回定期) 初日のリハーサルの後、水戸の町で転んで

ヴァイオリンの表板が割れてしまい、借りた楽器では自分の音が出なかったこと、それでもオーケストラの方々は温かい目で見てくださったこと。それからベートーヴェンの 弦楽四重奏曲 第14番 作品131(弦楽合奏版)はもう一度やったらもっと性格が出るだろうと時々夢を見てしまいます。

(編註:ベートーヴェンの作品131は2000年・第41回定期(指揮:小澤征爾)で取り上げられています。)

水戸室内管弦楽団の将来の姿としてどのような理想をお持ちですか?

潮田:たいへん正統で健康な道を歩んでいると思いますが、将来もっと水戸でしかできないレパートリーや性格の音楽を探していきたいと思っています。

潮田さんから見て、小澤征爾さんとはどのような指揮者ですか?

潮田:いつも全力で音楽作りをしてくださるので、私たちも一生懸命弾きたくなる指揮者です。私たちの苦勞を分かってくれる方だと思っています。

最後に聴衆の方へのメッセージをお願いします。

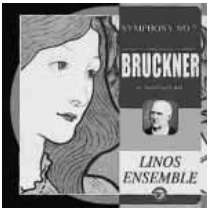
潮田:いつもいつもありがとう。こんな素晴らしい環境でリハーサルができて(水戸芸術館の方々の心のごもったHelpと\*マーチャンのセッティングと)美味しいものを食べながら、音楽を作っていく贅沢! だから喜んで水戸に来ました。

温かいモーツァルトを聴いてください。

(編註:マーチャンはステージマネージャーの宮崎隆男氏)

どうもありがとうございました。

《中村》



参考CD:リノス・アンサンブルによる  
ブルックナー:交響曲 第7番(室内  
楽版)カプリッチョ M10864]

## 聴き逃したら後悔必至！「ウィーン幻想交響楽」の宵は“初めて”づくし。 2/23(日)ATMアンサンブル第18回演奏会

何やら大仰な見出しを書いてしまいましたが、この言葉に偽りはありません。2月23日(日)に行われるATMアンサンブル第18回演奏会(および22日に行われる第9回碧南演奏会)は、ATMアンサンブルが室内楽グループとして挑むひとつの臨界点である、とって過言ではないでしょう。ブルックナーとシェーンベルク 西暦1900年という「不思議な日付変更線(指揮者レナード・バーンスタインの言)」をはさみウィーンで活躍した2人の作曲家による「幻想交響楽」の宵。いったいどのような演奏会になるのか、ご紹介しましょう。

### 1 ATMでブルックナーの交響曲??

今回の演奏会のメイン曲目となるのが、アントン・ブルックナー(1824-96)の交響曲第7番 ホルン長調です。ブルックナーという作曲家は名前こそ非常に有名ですが、コンサートホールATMでは一番縁遠い存在のひとりかもしれませんね。曲が難しいから?いえいえ、そういうわけではありません。なにしろブルックナーの代表作といえば、大編成のオーケストラを用いた9曲の大交響曲(習作的な第0番 第00番 を入れれば11曲)。コンサートホールATMではとうてい演奏できない巨大な編成の作品ばかりなのです(なにしろ最大級の第8番あたりになると、ホルンが8本も使われていたりします!)。ブルックナーには3曲のミサ曲を含む宗教的合唱曲の傑作も数多くあるのですが、結果的にこの12年間コンサートホールATMで演奏された彼の作品は、弦楽五重奏曲 長調(1994年に水戸カルテットと川崎雅夫が演奏)のみ。

しかし、その時の客席からの反応は、実に熱っぽいものでした。そしてアンケートには「ブルックナーって長くて聴くのがたいへん、と思っていたけれど、こんなにすごいとは!」という驚きが多く含まれていました。たしかに、ブルックナーの音楽は、どの交響曲も1時間かそれ以上かかりますし、音楽にマーラーのようなめまぐるしい変化は稀薄で、むしろゆっくりと一步一步大地を踏みしめながら、何度も立ち止まり深呼吸しつつ進んでゆく巨人の足どりを思わせます。BGMとして聴くにはあまりに重量級。しかしだからこそ、日常から隔絶され、ケイタイもeメールも追いかけてこないコンサートホールに身をひたして聴くことによって、労に報いてあまりある感動を与えてくれるというものです。水戸カルテット演奏会での上述のような反応

は、その証左にほかなりません。

こんな偉大な音楽がコンサートホールATMでめったに聴けないのは残念...と、今回ATMアンサンブルが取り上げるのはブルックナー最大の人気作 交響曲 第7番 の室内アンサンブル版!フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット各2、ホルン4、トランペット3、チューバ3、コントラバス・チューバ1、ティンパニ、弦5部という編成が、クラリネット1、ホルン1、弦楽四重奏+コントラバス、ピアノ、ハルモニウム(リード・オルガンの1種)という編成に凝縮されるのです。こんな編成、誰が考えたのか?そこでひとりの作曲家がキーパーソンとして浮上します。アルノルト・シェーンベルク(1874-1951)です。

### 2 シェーンベルクと「私的演奏協会」

調性の限界を突き破り12音技法を創始し、20世紀音楽にはかりしれない影響をもたらしたシェーンベルク。しかし20世紀初頭の保守的なウィーンの楽壇において、その作品は理解の埒外にあるものとしてしばしば激しく非難されました。初演の度に巻き起こる妨害や騒動にうんざりしたシェーンベルクは、自分たちの音楽を誠実に聴いてくれる聴衆を対象とした「私的演奏協会」を1918年に設立し、いわば「音楽のサポーター」づくりを始めます。会員制のこの演奏会では、拍手等の反応も禁じられ、音楽をじっくり静聴することが要請されました。そして新作ばかりでなく、より広く聴かれるべき同時代や過去の作品も、プログラムに頻繁に取り上げられたのです。オリジナルが大編成のものは、シェーンベルクとその弟子たちによって小編成のために編曲されました。マーラーの交響曲 第4番 や 大地の歌、ドビュッシーの牧神の午後への前奏曲 やレーガールのロマンティックな組曲 等々...これらの編曲は、単なる簡易版の域を遥かに超え、シェーンベルクら新ウィーン楽派独自の美学が生きた創造的な編曲版となっています。ブルックナーの7番も、この協会の活動末期にアイスラー、スタイン、ランクルという3人のシェーンベルクの弟子によって上記の編成へと編曲されたのです。このヴァージョンは結局、協会の解散(1921年)によって実際に演奏されることはありませんでした。分厚い響きの印象が強いブルックナーの音楽にシェーンベルク一派はどんな新しい光を投げかけたのか。ブルックナ

ー・ファンのみならずとも、興味津々です!なにしろ、日本初演なのです!

### 3 ポスト・マーラーの地平へ シェーンベルク

ブルックナーの7番と組み合わせられるのが、シェーンベルクの室内交響曲 第1番 ホルン長調。1906年に書かれたこの作品でシェーンベルクは、調性音楽のぎりぎりの地点に立っています。ヴァーグナーやマーラーゆずりの半音階の多用や複雑な和声進行が、もはや調性を壊す一歩手前まで推し進められているのです。15楽器のために書かれた約20分の作品で5楽章からなりますが、マーラーの交響曲を20分に濃縮したような恐るべき密度!じっさい、この曲の4-5年後に書かれるマーラーの9番や10番と比べて聴くと、そのあまりにも予言的な内容に慄然とせざるを得ません。今回は、弟子ヴェーベルンが1922年に編曲したピアノ五重奏版で演奏されます。これも極めて演奏機会が少ない、しかしみごとな編曲です。演奏会は後半にブルックナー、前半に室内交響曲、さらにその前にシェーンベルクが晩年に書いたヴァイオリンとピアノのためのファンタジーを配し、いわば時代をさかのぼってゆく構成をとっています。

### 4 出演者もプレトークもスペシャルすぎ!

今回、管楽器・鍵盤楽器を含む9人編成のブルックナーを演奏するにあたって、ATMアンサンブルは期待の若手演奏家(クラリネット:伊藤 圭、ホルン:安土真弓、ヴィオラ:赤坂智子、コントラバス:松井理史、ピアノ:丹 千尋、ハルモニウム:椎名雄一郎「ちょっとお昼にクラシック」にも登場)を迎えた拡大編成で臨みます。タクトを振るのは近年指揮者としても評価の高い原田幸一郎。コンサートホールATMで指揮をするのはこれが初めて。また、ファンタジーでは通常ヴィオラの豊嶋泰嗣がATMアンサンブル演奏会で初めてヴァイオリンを弾くのも注目です。そして、『シェーンベルクと私的演奏協会』の題で演奏会の前(17:00から45分ほど)にプレトークを行うのは雑誌『レコード芸術』の「傑作!? 問題作!」欄などで批評の辣腕を振るう大活躍中の評論家・片山杜秀氏。さらに休憩中にカフェではウィーンにちなんでコーヒー一杯サービスと、これでA席3,500円というチケット料金は安すぎる!と思っていた大盛り沢山の内容をご用意します。「ウィーン幻想交響楽」の夜へようこそ! 《矢澤》



写真左から；  
清水靖晃、鈴木隆太

## 五感を解放するサクソフォン。芸術館が未知の音響にうち震える。

3 / 8(土)現代音楽を楽しもう X VI 清水靖晃 Bach-SaxOrgan-Space

2002年8月15日。有楽町の東京国際フォーラムを舞台に行われた現代美術のイベントにて、不思議な「人間鳩時計」が出現しました。国際フォーラムの巨大な建物同士をつなぐ空中回廊に、定時になると登場するサクソフォンを持った人間鳩時計。彼はバッハの無伴奏チェロ組曲をモチーフにした即興演奏を行います。きらきらと撒き散らされる音の粒子たちは炎暑のビルの谷間にシャワーのごとくふりそそぎ、道行く人々や、会場に設置された畳の上に寝そべる人々の身体と心をここちよく包んでゆくのでした。

この「人間鳩時計(Human Cuckoo Clock)」プロジェクトの主はサクソフォニスト清水靖晃氏。鬼才サクソフォニストとして1970年代に登場し、その後民族音楽、現代音楽、映画や現代美術などと自在に交感しながら私たちの「聴野」を広げてきた越境的音楽家です。最近では、サクソフォンによる史上初のバッハ：無伴奏チェロ組曲の録音(ビクターVICP235、VICP60887、VICL60112)が自動車のCMにも使われ、静かなブームを呼んだのが記憶に新しいところでは。

近年の清水氏の関心は、後述のインタビューにもあるように、演奏者 / 聴衆 / 場の関係そのものを問い直すラディカルな方向に向かっています。とはいえ、別に難解なことをやっているわけではありません。バッハの音楽を主たる触媒に、通常のコンサートホールとは異なる「場」をいわば「楽器」として鳴らしてゆくのです。上述の国際フォーラムのパフォーマンスも、そのひとつの試みです。「現代音楽を楽しもう」(企画：池辺晋一郎)シリーズの登場にあたって、清水氏はコンサートホールでなくエントランスホールを会場として選び、さらにパイプオルガン(以前、本シリーズに登場した和太鼓の林 英哲氏と共演、新実徳英 風神・雷神の壮絶な演奏を聴かせてくれた鈴木隆太氏)と共演することを選びました。その真意は何か。以下のeメールインタビューで探ってみましょう。

**Q1. 清水さんの活動はある時期からコンサート会場を脱し、採石場跡や地下駐車場など、通常の演奏会場とは異なるさまざまな「場」と交感することに重点を置かれるようになっていきます。これはなぜでしょうか。**

清水: 間主観的な伝達手段として、最も洗練された

建築の一つがコンサートホールだと思います。その「場」は、一人で小説を読む事とは異なり、大勢の他者と同一の場で、ある意味に取り組み、それを共有するといった幻想で成り立っています。また現代のコンサートホールは、敢えて空間を真空化(科学実験室のように)して、そこに生まれる価値を普遍化し、「厳選した意味の細部に皆で集中しようよ」ってところに趣を置いていると思います。

これは良いとか悪いという事とは別次元の話です。むしろ歴史の過程としては当然で、ひょっとしたら素晴らしい事もかもしれません。でも僕はこの意味をもうちょっと溶解したいな、と思っちゃった。五感と言われている概念的に分けられた五つの感覚の各々を筒で繋げて風通し良くしちゃうかなと思ったのです。やはりコンサートホールってのは、普通楽器の演奏や歌等を聴く場所って事になっちゃうんですね。コンサートホールは楽器じゃない(今のところ)。だけど大谷石地下採石場跡や渋谷地下駐車場などの空間は、楽器なのです。何故? 僕がそう決めたからです。

**Q2. またその際、バッハの音楽を触媒として選ばれたのはなぜでしょうか。**

清水: 1996年の『Cello Suites 1.2.3』(VICP235)の準備をしていた時ですが、「バッハ サクソフォン スペース(空間)」という三角関係にとっても惹かれたのです。ですからバッハの音楽を演奏しようと思った訳ではなく「バッハ サクソフォン スペース」を演ろうと思ったのです。各々の関係については、長くなるので勘弁して下さい。

**Q3. 昨年4月に清水さんが芸術館を訪れた際、会場としてエントランスホールを選んだのはなぜでしょうか。また、芸術館の印象をお聞かせください。**

清水: 2000-2001年に島根県立美術館、新津市美術館、丸亀猪熊玄一郎美術館と美術館に集中してパフォーマンスを行いました。これは、美術館という視覚に趣を置いた空間(箱)で音を見せたいと思ったからです。特に最近の美術館の建築構造は、視覚の為のコンサートホール(1.で言いましたが実験空間という意味で)といった感がありますが、これを逆手にとって「ほら見えるでしょ」ていうのが演りたかった。また多くの美術館はコンクリート建築なので、残響が長いというも音

を見せるのには好都合な訳です。

水戸芸術館には、今企画の為の下見以外に何度か訪れ素晴らしい展示会を堪能させていただきました。特に1993年の「ANOTHER WORLD」の企画には度肝をぬかれたのですが、その同じ空間でパフォーマンスができる事にエキサイティングしております。だから、コンサートホールではなくエントランスホールなのです。

**Q4. オルガンとのコラボレーションによって、どのようなパフォーマンスを行うことを考えられていますか。**

清水: 僕は、「パイプオルガンは筒だ」というところに注目しています。特に重低音を放出する太くて長い筒。この筒とサクソフォン(筒)とのコンビネーションで空間にうねりを齎す事ができると考えています。でもこの二つの要素は、あくまでエントランスホールを楽器として振動させる為の発振源です。やはりエントランスホールが楽器です。更に各々の方のその音が聞こえる場所(科学的には脳と思われているが?)もまた(エントランスホールより大きな)楽器です。

**Q5. 今回はコンサート会場に壁を設けず、聴衆は館内を自由に回遊することができます。清水さんとしては聴衆の方々にどのような意識でコンサートに臨んでほしいと考えられますか。**

清水: 何も考えないで下さい。あっ、何も考えない事を考えるのは、難しいよね。

(1月2日、eメールによるインタビュー)

謎めいた言葉も交えながら答えてくださった清水氏。「何も考えず」、そこが芸術館であることすら忘れ、五感を解放する筒たちが奏でるバッハ + に身を委ねていただきたいと思います。エントランスホールは通常オルガンリサイタルの際に設ける仕切り壁を立てず、パフォーマンスを聴きながら館内を自由に回遊できます。さらに現代美術ギャラリーで開催中の『クロード・レヴエック展』も割り引き料金(600円)でご覧いただくことができます。楽しみ方、感じ方は、来館されるあなたに任されているのです。

《矢澤》



写真左から：  
松下 耕  
日本のうた セミナー  
前回のレッスン風景  
水戸うらら女声合唱団

## 欧州古来の旋法に日本固有の音階… あなたの合唱の世界が広がります。

3 / 2(日)合唱セミナー2003

日本を代表する合唱指導者を迎え、合唱の楽しさ、奥深さを学ぶ合唱セミナー（茨城県合唱連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部との共催）。最近2年は池辺晋一郎氏、新実徳英氏と、作曲家を講師に招き、自作をレクチャーしていただきました。そして今年、作曲家であり合唱指揮者としても活躍する松下耕氏が登場します。

松下氏は、欧州の歴史ある合唱音楽を研究しながら、同時に日本民謡の研究も重ねてきました。今回課題曲に取り上げる松下氏の 合唱のための新しいエチュード 1 には、氏のそうした研究のエッセンスが凝縮されています。ある曲は欧州古来の旋法をもとに書かれ、またある曲は日本固有の音階を用いて書かれています。しかもどの曲も易しく書かれていますので、どなたでも気軽に親しめます。これまでルネサンス時代の作品を勉強したいけど敷居が高く感じられていた方や日本民謡を合唱でやってみたいという方には最適です。また、新しい愛唱歌のレパートリーとして練習されても楽しいでしょう。松下氏の指導の下、皆様の合唱の世界が広がる絶好の機会となるに違いありません。

《松田》

## 追悼・平井康三郎 ～代表作 日本の笛 の抒情にせまる。

3 / 15(土)畑中良輔の 日本のうた セミナー第2期  
第3回 平井康三郎

日本歌曲の歴史を辿りながらお送りしてきた「畑中良輔の 日本のうた セミナー」。3月15日(土)は第2期最後の開催です。今回テーマとなるのは前回の橋本国彦と同時代の作曲家、平井康三郎による歌曲集 日本の笛 です。

北原白秋の詩によるこの 日本の笛 には各地方の民衆の風俗が描かれています。平井は当時の最先端の技法を多用した橋本と違い、あくまで簡素な書法を貫きとおしました。とりわけ 日本の笛 全21曲は平明に書かれています。それがかえて1曲1曲の強い個性を際立たせているのです。近代フランス印象派やシェーンベルクの音楽を知っていながら、平井があえてそれらを取り入れなかったのはなぜか。またどのように平井は平明さを保ちながら21曲の個性を描きわけたのか。そうしたところに注目して畑中のレクチャーをお聴き下さると、より作品の深みに迫れるでしょう。

また、日本の笛 の様々な曲調を描き分けるのは歌い手にとっても同じこと。南国と雪国の歌を同じように歌っては曲ごとの個性が生きません。ここに 日本の笛 の難しさがあります。今回のゲストにはそんな 日本の笛 を得意とするテノール中村健氏を迎え、ぬしは牛飼い 夏の宵月 など6曲を披露していただきます。それぞれの歌の抒情を豊かに表現してくれることでしょう。

平井康三郎氏は昨年11月30日に逝去されました。講師の畑中からも生前の氏との思い出が語られることでしょう。今回は、氏を偲びながらセミナーを開催いたします。

《松田》

Portrait

Portrait

## 日本の合唱曲を歌い続けた四半世紀、 その歩みの結実。

3 / 9(日)水戸うらら女声合唱団25周年記念演奏会

今年結成25周年を迎える水戸うらら女声合唱団が、3月9日、「茨城県在住演奏家による企画」シリーズに登場します。演奏会を前に、団長の嶋原みよ子さんにお話を伺いました。

水戸うらら女声合唱団のレパートリーの大半は日本語の合唱曲。それは結成当初から指導にあたる中澤敏子さんの力が大きい、と嶋原さんは言います。「先生は日本語の美しい響きを求めて今なお発音発声の研究を続けておられます。ご指導いただいているうちに、私達も日本語による歌唱に対する何か使命感のようなものを感じるようになりました」。選曲の際も、まず団員同士で歌詩を朗読しあい、その詩人の他の作品も鑑賞し、納得するまで研究してから初めて歌うのだそうです。指揮者の旺盛な探究心が25年かけて脈々と合唱団員に受け継がれているようでした。

今回のプログラムも邦人作曲家の作品が4つのステージに分かれて並んでいます。最初の2つのステージでは西村朗と新実徳英の作品が披露されます。どれも近年水戸うらら女声合唱団が取り組んでいる曲ばかり。嶋原さんは言います。「ここでは色々な『愛のかたち』を表現したいのです。例えば新実先生の 形見 は抒情的な恋愛の歌ですが、西村先生の 君に は少年が少年に想いを馳せる歌。第2ステージの新実先生の をとこ・をんな は女性の一途な愛。各々の曲をイメージするのが大変です」。また、をとこ・をんな ではコントラバス溝入敬三、三絃野澤徹也との共演も。「お二人とも国際的に活躍されている方。私達も中澤先生と共にひたむきに練習しております。どうぞ御期待下さい」と抱負を語ってくれました。

第3ステージは終戦直後の流行りうたをメドレーで綴る猪岡道明編曲 TOKYO 物語。「戦後の日本が立ち上がって行くための原動力となり、人々が元気付けられた歌です。歌は世につれと言われるように、この歌は終戦直後という時代を写す鏡のようなものでもあると思うのです」と嶋原さん。本番では振付もあって当時の情景を視覚的にも伝えてくれることでしょう。

最終ステージは20年以上歌い続けてきた高田三郎の作品が演奏されます。嶋原さんは高田三郎を指導に招いたときのことを語ってくれました。「高田先生はいつも『君たちは何のために歌うんだ』と問いかけられ、時には『歌を歌うことは人生と同じなんだ』ともおっしゃいました。20年来、先生の御作はうららの歩みと共にあり、今もずっと歌い続けております」そう回想しながら微笑む嶋原さんは、過去を振り返るというより、忘れてはならない歌うことの原点を再確認しているように思われました。

日本の現代の合唱曲から想い出の曲、そして流行りうたまで。一口に日本語の合唱といっても様々な作品が披露されます。「お客様には楽しんで聴いて頂きたい、というのが一番の想いです」。嶋原さんは最後にそう語ってくれました。

《松田》

最近の公演から  
NOVEMBER



1



2



3



4



5



6



7



8

水戸室内管弦楽団第51回定期演奏会

(11月9日、10日)

水戸室内管弦楽団(MCO)第51回演奏会は、その活動の重要な柱のひとつである、指揮者をおかない演奏会。ハイドンの協奏交響曲における4人のソリスト(宮本文昭、ダーク・イェンセン、安芸晶子、安田謙一郎)とオーケストラとの対話、ヤナーチェクの弦楽四重奏曲 トルストイのクロイツェル・ソナタに靈感を受けて 弦楽合奏版に要求される高度なアンサンブル能力、そして本来各パート1人で演奏されたと思われるモーツァルトのディヴェルティメントK.334の合奏による演奏...いずれも、MCOが「指揮者なし」の演奏会で育んできた「室内楽の精神」を十分に発揮し得る曲目でした。聴衆の方々の反応も以下のアンケートをご覧の通り期待を上回る、生き生きとしたものばかり。「指揮者なし」の演奏会にこれだけヴィヴィッドな反応が集まったことを、嬉しく思います。なお当日演奏会場では、TV番組「ジカダンパン」に対する芸術館からの反論資料をお客様に配布いたしました。これに対しても多くのお客様から熱心なご支援のお言葉をいただいたことに、感謝申し上げます。なお演奏会は収録され、全日空国内線および国際線の機内放送で放送される予定 決定次第追ってご報告します。アンコールはモーツァルト:交響曲 第40番ト短調 K.550から第3楽章メヌエット。《矢澤》

アンケートから ヤナーチェクの弦楽合奏については初めて聞くものでしたが濃密で緊迫感と弛緩、濃厚さと淡麗さなどが調よく交錯した名演奏と思われ、心豊かなひとときを味わせて頂きました(那珂郡:無記名の方) ハイドンは音の商店街。色々な音の出会いが楽しめました。モーツァルトは音の公園。自由に眺めて楽しむ雰囲気。白眉のヤナーチェクは音の森(東京都:M.K.さん) 音楽をする喜びにあふれた奏者、それを聴く幸せ一杯の聴衆。(中略)又、水戸に来て幸せ一杯になって帰れます。(北海道恵庭市:J.I.さん)\*遠路からありがとうございます。静岡から頻繁にいらしている方の感想もありました。今回のヤナーチェクはよかった!古典派は現代の私たちにはなじみにくい(真壁郡:K.N.さん)\*10代ならではのフレッシュなご意見ですね。秋、また水戸室内が聞けて幸せでした。水戸で、このホールで(サントリーホールとかじゃなくて)世界的な室内楽を聞いたことを市民の一人として誇りに思います(水戸市:無記名の方) 周囲の雑音をふきとばすよい企画、よい公演を期待しています。(中略)少し位の風でこのコンクリートの建物はびくともしないと信じています(水戸市:T.M.さん)\*同様の励ましのご意見が他に11通ありました。ありがとうございます。

水戸室内管弦楽団第52回定期演奏会

(11月23日、24日)

水戸室内管弦楽団福岡演奏会(11月25日)

第52回定期演奏会は、指揮に若杉弘、独唱にナタリー・シュトゥツマンを迎え、ドイツ音楽のプログラムをお楽しみいただいた。まず、MCO初となるヴァーグナー作品。ジークフリート牧歌が流れ出した瞬間、MCOからヴァーグナー独特の半音階進行と陶酔的な和声が紡ぎだされたことに新鮮な感動を覚えたのは私だけではないだろう。シュトゥツマンとの5年ぶりの共演となった ヴェーゼンドク歌曲集 では、シュトゥツマンの見える鋭い心理描写と陰影深い歌唱にオーケストラが見事に反応し、陶然とした世界を作り出していた。後半のベートーヴェン 交響曲第1番 では、若杉弘が第1ヴァイオリンと第2ヴァイオリンを左右に分ける配置を採用、楽曲の構造をより鮮明に伝えることが意図された。「ここでは楽団員が水準の高い共通の音楽言語を持っているから、すごく高度なことを追求できる。すごく楽しい!」とはマエストロの弁。その高みを目指し、くり返し行われた妥協なきリハーサルは、見事に本番の成功を導いた。アンコール曲は、J.S.バッハ(ストコフスキー編曲):平均律クラヴィーア曲集第1巻第24番口短調BWV869より プレリュード。

なお、11月25日には財団法人アクロス福岡主催による福岡演奏会を福岡シンフォニーホールで行った。約2000席の大きなホールだが、99年秋にトレヴァー・ピノックの指揮で一度訪れているだけに、メンバーもリラックスして演奏できたようだ。

《関根》

アンケートから 真のすばらしさ!音が空気とけてゆく、最上の時間を頂戴いたしました。(日立市:Y.M.さん) ナタリー・若杉・MCOのトリプルが最高にすばらしい。こんなに甘美なヴァーグナーを聴いたことがない。胸に迫る歌声に涙した人は私だけではないはず...(R.A.さん)

ヴェーゼンドク歌曲集 は豊潤な音の響きに魅了された。オーケストラが、伴奏というよりも、ともに歌っているような印象さえ受け、ソリストと子ども表情豊かな音色を聴かせていた。(水戸市:T.M.さん) とてもみずみずしい魅力的なベートーヴェンでした。工藤さん、宮本さん、堤さんがこんな風に並んでいるなんて、すごいことですね。曲によってコンマスも代わるし、何と言っても音が良く鳴って、ソリスト集団だなぁと感じしました。(水戸市:M.Y.さん) TVの放映(オーディオを通しての音と目の生演奏は全く別。世界Topレベルの室内オーケストラにふさわしい音だ!水戸、茨城、日本の誇りと思う。マエストロ若杉のベートーヴェン、絶品の演奏!(高萩市:H.O.さん)

1. MCO第51回定期リハーサル風景 2~4. MCO第51回定期演奏会  
5. MCO第52回定期リハーサル風景 6~8. MCO第52回定期演奏会



\*nettama=ネットワークする猫。タマ、  
芸術館のコンサートをサカナに  
いろんなところへnettamaします。

## 特別版・続「ジカダンパン」報告

去る12/1月号の「ネットタマ」に掲載した「特別版・ジカダンパン報告」は読者の方々から大きな反響をいただき、eメール、お電話、直接の会話などさまざまな形で心温まる励ましと力強いご支援のお言葉をいただきました。スタッフ一同、心よりお礼申し上げます。芸術館webサイトに届いたご意見は上記ネットタマURLおよびジカダンパンファイル<http://www.arttowermito.or.jp/jika/jikalist.html>でご覧いただけますがここではこの問題について新聞等に寄稿された方々のご意見をご紹介しますと思います。

『市民が支える芸術館』鈴木 勉様(茨城町在住・水戸芸術館友の会運営委員)

「市民の税金を使う公共施設なのに、市民に開放されていない」として、芸術館をやり玉に上げたテレビ番組を見た。何事にも「聞くべき批判」というのは当然ある。だが番組は、それに値しなかった。事前調査や取材を公平・公正に行った様子はみられず、攻撃と弁解の対決構図に終始した。建設的部分を欠き、報道機関としての良識を疑わせる、極めてお粗末な内容だったと言わざるを得ない。計画当初から芸術館を見てきた一人として、述べたい。「自主事業主体の運営で貸し館をしない。そのため市予算の1%を(上限に)補助」。これは芸術館の最大の特徴であり、事業の質的水準を維持するうえで、いわば主張だ。「市民への開放」はもちろん必要なこと。条例審議の市議会でも議論された。その結果「館の自主事業に市民が参加する」とつまり市民と館の共催事業の形をとることで決着をみている。

開放はされている。ただし貸し館とは異なるルール。「それが市民参加を阻んでいる」という見方は「木を見て、森を見ない」考え方と言えよう。「貸し館でも何でもあり」とするなら、それは質的な意味でもはや芸術館ではない。

ルールに基づき、さらなる開放を探る論議をすることは賛成である。その余地もまだあると思うし、館側には、努力を要望しておきたい。

とはいえ、市民開放が使う側からのみ語られることは、実はいささか納得がいかない。「観る・聴く」目的の観客や散策で訪れる人もまた市民であり納税者。そして、使う側に比べ圧倒的に多数なのだ。友の会も含め、こうした人たちが芸術館を支えている。このことを忘れてほしくない。(水戸芸術館友の会会報誌「TOWER」No.38 2002年11月発行)

『誇りを持って芸術館運営を』

柳沼良一様(水戸市在住)

テレビ放映などで水戸芸術館が最近世間をにぎわしている。市民で施設利用を断られた人もい

るだろうが、そのことのみをとらえ「市民が使えない。開かれていない。ナンセンスな施設」と決め込むのは早計にすぎず。素人の小生すら仲間たちと童謡や唱歌など芸術館の舞台上で歌わせてもらっている。市民の声に謙虚に耳を傾けることは大切。とはいえ市民の声をすべて聞き入れることには即つながらない。

重要なのは既に定着している超一級の芸術を水戸から発信し鑑賞しようという芸術性にいかに公共性や市民性を加味していくかである。税金が使われているので市民は株主みたいなもの。芸術館に足を運び自分の耳・目で聞き見て、建設的な意見を言ったらいい。良心的なものなら芸術館も実現に努力したらいい。

そこで市民と芸術館が「虹の橋」で結ばれる。納税一市民として芸術館をフルに楽しんでいる。水戸芸術館は誇りだ。水戸で芸術がどうあるべきかが試されている。ここは踏んぱりどころ。誇りを持って運営に当たってほしい。水戸芸術館にエールを送る。(2002年11月24日付 茨城新聞「県民の声」に掲載)

『誰でも使える優れた演奏会場を求めて』

各務真卿様(水戸市在住)

最近テレビ東京の番組「ジカダンパン」(2002年10月21日)で、水戸芸術館の運用が市民のアマチュア演奏家を締め出そうとしているとして、アマチュアオーケストラの主催者A氏から怒りの告発が放映された。これに対して作曲家B氏から「地方で第一級の音楽を」という立場から反論の論説が読売新聞(11月7日)に掲載された。

このA,B両者の主張はどちらにも言い分があって興味深い話題を市民に提供した形となり、市民の間で議論が沸騰している。しかし、両者の主張はどちらも限られた一つのパイを奪い合う立場に立ち、両者の議論がこのままエスカレートしたら、一般市民を置き去りにした不毛な神学論争に陥ってしまうのではなからうかと懸念される。

両者ともに水戸芸術館に向けての主張の形をとっているが、このように「第一級の音楽」と「アマチュアが演奏する音楽」との両者のバランスを図って芸術館のスタッフが苦勞しているというのが実情であろう。

水戸芸術館では「地元学区の音楽祭」「少年少女合唱祭」「茨城の名手、名歌手たち」「市民音楽会」「茨城県在住演奏家による演奏会企画シリーズ」「プロムナードコンサート「ヴァリエーションズ」」などを現に市民参加の形で催しており、入場料無料のものも多い。「アマチュア演奏家を締め出そうとしている」との非難は酷である。

またパブルがはじけて全国の地方都市が苦しい財政事情の中で「地方で第一級の音楽を」という理想の灯が揺らいでいるそうであるが、その中で

水戸芸術館がこの理想に向けて懸命に努力しているのも事実であり、これ以上に「地方で第一級の音楽を」という立場でのポルテージを上げることもまた財政事情から無理であろう。

水戸市に演奏会や演劇もできる大きなホールを備えた市民会館などがあり、貸し館業務を行っているが、各種行事の利用申し込みが目白押しであるのに加えて、演奏会用には音響効果が悪いという大きな難点を抱えている。県都水戸市には遠方の市町村からも車で多数の会員が集まる大規模なハイレベルの合唱団が幾つもあるが、この練習に利用している公民館の駐車場が狭いのが悩みの種になっている。また近年コンピュータによってホールの音響効果をシミュレートできるようになり、音響効果の優れたホールが水戸市周辺の市町村にあいついで建設されたが、それらのホールは広い屋外無料駐車場をも備えている。

このために、水戸市内に立地している大学、専門学校、市民の合唱団などの演奏会が水戸市内のホールでなく周辺の市町村ホールへと次々に流出している。公共施設の広域利用という聞こえは良いが、実態は県都に市民が利用しやすい優れたコンサート用ホールが少ないことによって生じた文化行事の空洞化現象に他ならない。人口25万人の中規模都市である県都水戸市にとって、音響効果の優れたコンサート用ホールと大きなリハーサル室を備えた音楽堂がもう一つ必要であるのに、ないということが「市民の自由な音楽作り」にとって最大の問題点であり、今のままでは文化都市水戸の看板が泣く。

6号国道バイパスの東側に隣接して市が買収した土地が遊休地になっている。ここは大洗鹿島線の東水戸駅に近く交通の便にも恵まれているために各種の文化福祉施設と屋外式の広い駐車場の建設計画が企画されつつあるが、ここに最新の音響技術を生かした音楽堂も合わせて建設することが解決策としてベストである。音楽愛好家の皆さん、この実現を目指して声を合わせて大合唱をしようではありませんか!(新聞への寄稿用に執筆されたもの、未発表)

ここに掲載されたご意見をはじめ、今回のテレビ番組「ジカダンパン」での放映に関して芸術館に寄せられたご意見はほぼすべて、これまで芸術館が行ってきた活動を支持する声で占められました(放映直後、非難の声も数件寄せられましたが、全て無記名、匿名の方でした)。水戸市民をはじめ、これまでの仕事を理解してくださっている多くの皆さんにこの場で改めて感謝いたします。わたしたちは、芸術館12年の歩みが決して間違っただけのものではないことを確認し、勇気づけられたということを励みに、当初の理念を守り、慢心することなく皆様と共に芸術館をより創造的な、活気溢れる場にしてください。努力してゆく所存です。これからも末永いご支援をよろしくお願いたします。

2003年1月1日

水戸芸術館音楽部門スタッフ一同

## information

### チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029 - 231 - 8000  
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

### 公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029 - 227 - 8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

【アートタワー通信】第1・第3週に1度、新しいばらき新聞に登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】木曜日 18:15頃 ~ 15分ほど(不定期登場) 水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

「茨城の名手・名歌手たち 第14回」出演者オーディション・・・・・・・・・・  
茨城県に関わりのある演奏家の皆さんを広く紹介する演奏会「茨城の名手・名歌手たち」。第14回を迎える今年9月13日[土]の演奏会に向けて、出演者オーディションを行います。なお、オーディション合格者のさらなる精鋭化を図るため、昨年より部門ごとに隔年開催となりました。今回のオーディションの対象は、管楽器・打楽器・声楽・器楽アンサンブル各部門となります(鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル各部門は、次回の対象となります)。開催日:2003年5月11日[日] 応募受付期間:2003年4月4日[金]~4月25日[金] 募集部門:管楽器・打楽器・声楽・器楽アンサンブル(2~5人まで) 資料請求方法:住所・氏名を明記し、80円切手を貼付した返信用封筒と、受験する楽器(編成)を書いたメモを同封の上、下記までお送りください。直接ご来館の場合は、エントランスホール・チケットカウンター(9:30-18:00 月曜休館)までお申し出ください。また、インターネットの水戸芸術館ホームページからもPDFファイルで入手可能です。  
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8 水戸芸術館 音楽部門「茨城の名手・名歌手たち」係(担当:関根・馬場)

野村誠CD発売のお知らせ・・・・・・・・・・  
2002年9月から10月にかけて開催した「野村誠のファミリー・ワークショップ 音遊び / 箏遊び」の中で誕生した野村誠さんの新曲「せみ bongo」を、同年10月20日(日)の「野村誠&箏衛門コンサート」で演奏した際のライブ録音を収めたCD「野村誠 せみ」(SH003)がSteinhandより発売されました。館内ミュージアムショップ「コントロールポアン」でお取り扱いしております。また、インターネットからもご購入いただけます。  
(http://www.steinhand.com/)

チケット・インフォメーション 2月1日(土)発売分・・・・・・・・・・  
オペラの花束をあなたへ 15  
4/19(土)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500  
高山三智子 ピアノ・リサイタル  
4/25(金)18:30開演 料金(全席自由)¥3,500  
アンネ・ソフィー・フォン・オッター メゾ・ソプラノ リサイタル  
5/2(金)18:30開演 料金(全席指定):A席¥6,000 B席¥4,500  
P席(ステージ後方)¥3,000

これからの演奏会・残席情報・・・・・・・・・・  
○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

水戸室内管弦楽団第53回定期演奏会  
2/8(土) 2/9(日) 2/10(月) ...完売  
ATMアンサンブル 第18回演奏会 2/23(日) ...中央x、左右・裏  
合唱セミナー2003 3/2(日) ...自由席  
現代音楽を楽しもう 清水靖晃 3/8(土) ...自由席  
水戸うらら女声合唱団25周年記念演奏会 3/9(日) ...自由席  
畑中良輔の日本のうた セミナー 第2期 3/15(土) ...自由席

1 / 11(土)現在の状況です。  
公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。  
固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の2・3月の主なスケジュール

### コンサートホールATM

水戸室内管弦楽団 第53回定期演奏会  
2/8(土)19:00開演、2/9(日)14:00開演、2/10(月)19:00開演  
料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000  
ATMアンサンブル第18回演奏会  
ブルックナー&シェーンベルク ウィーン幻想交響楽  
2/23(日)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500  
合唱セミナー 2003 講師 / 松下 耕  
3/2(日)10:00開始 参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500 中学生以下¥300  
水戸うらら女声合唱団 25周年記念演奏会  
3/9(日)14:00開演 料金(全席自由):¥2,000  
畑中良輔の日本のうた セミナー 第2期「平井康三郎」  
3/15(土)14:00開始 料金(全席自由):¥1,500

### エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート 2/1(土)13:30 / 15:00  
2/16(日)12:00 / 13:30 2/22(土)13:30 / 15:00 3/16(日)12:00 / 13:00  
3/22(土)13:30 / 15:00 3/23(日)12:00 / 13:30  
宴や夜市(泉町商店会関連企画) 2/28(金)18:00 3/28(金)18:00  
入場無料 演奏は各回20分程度です。  
現代音楽を楽しもう 清水靖晃 Bach - SaxOrgan - Space  
3/8(土)18:30開演 料金(全席自由):¥3,500

### ACM劇場

平成14年度文化庁芸術拠点形成事業 KUSHIDA WORKING『スカパン』  
2/1(土)19:00開演、2/2(日)14:00開演、2/7(金)19:00開演、2/8(土)19:00開演、2/9(日)14:00開演  
料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000  
水戸市民舞踊学校修了公演 『虹色ブリッジ』  
3/1(土)19:00開演、3/2(日)14:00開演  
料金(全席自由):¥1,500  
水戸市民演劇学校卒業公演 『すべての本がおさめられたパベルの図書館という名の本がおいてある図書室』  
3/15(土)19:00開演、3/16(日)14:00開演  
料金(全席自由):¥1,500  
水戸子供演劇アカデミー卒業公演 『新しい歌』  
3/29(土)19:00開演、3/30(日)14:00開演  
料金(全席自由):¥1,000

### 現代美術センター

クロード・レヴェック展  
12/21(土)~3/9(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)  
休館日:月曜日  
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、各種障害者手帳をお持ちの方は無料

## 茨城の2・3月の主な演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020 久保陽子 ヴァイオリン・リサイタル  
3/15(土)18:00開演  
茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166 ブーケ・ド・ソン第5回演奏会  
2/23(日)14:00開演 (問)鈴木 TEL / 090 - 4543 - 9095  
水戸市民会館 TEL / 029(224)7521 イ・ソリスト・イバラキ室内合奏団  
オーケストラ de コンチェルト 12 2/16(日)14:00開演  
ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122 トヨタコミュニティコンサート in 茨城 オペラ「椿姫」全幕 茨城交響楽団特別演奏会 2/9(日)16:00開演 (問)茨城交響楽団 TEL / 0120 - 6721 - 99  
日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711 渡辺香津美 with NORA  
2/22(土)18:30開演  
ギター文化館 TEL / 0299(46)2457 ハビエル・ガルシア・モレノ ギター  
リサイタル 2/23(日)15:00開演 中村 創 ギターリサイタル 3/23(日)15:00開演  
北浦町文化会館 TEL / 0291(35)2908 打楽器アンサンブル 演奏:パーカッショングループ 72 2/16(日)14:30開演 (問)北浦町教育委員会生涯学習課 TEL / 0291(35)2907

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2003年1月発行 第88号  
編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130  
e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]  
編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵  
松田善幸 矢澤孝樹(編集長)  
DTP / office west  
印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...春に歌の花束!